

医療法人 八誠会

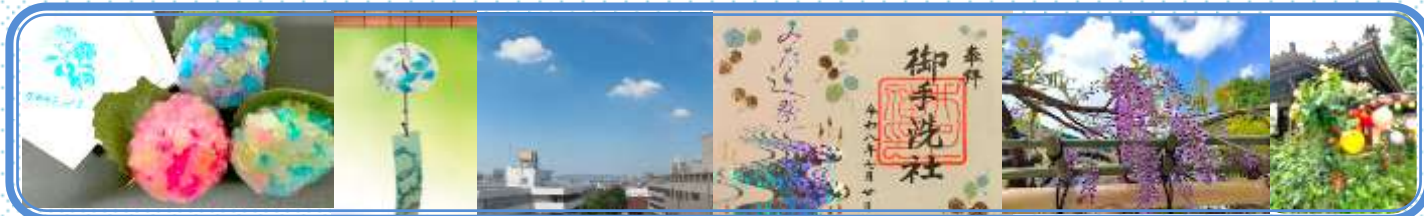
もりそう教育だより

令和8年7月発行（No.20）

発行／もりやま総合心療病院

看護部

TEL 052-791-2133



朝ドラ「風、薫る」 見えていますか？

教育だよりも今回で 20 号になりました。今年で 7 年目です。さて、今回はどんな話題から始めようかと考えておりましたが、やっぱり朝ドラでしょうか。日本で初めての看護婦養成所でナイチンゲールの教え子のイギリスの先生から看護を学んだ 2 人のナースの物語です。ドラマでは、病院での実習を終えて社会にはばたく前に、先生が日本のどこの病院にも看護婦がいるようにすることが私の夢だと語っていました。確かに看護師不足と言われながらも、今はどこの病院にも看護師が働いています。誰かの夢や努力が社会を変えていくのだなあと感動でした。

ちなみに、私の夢は、心を病むことがあっても、安心して病院に行けて、よくなったら退院して、自分なりに幸せを感じながら生きていけるような世の中にあること、そのために同じ志を持つ仲間と働けることでした。昭和の時代には、障害者への偏見も強く、今ほど自己決定が尊重されていなかったと思いますが、社会も変わってきていると感じています。まだまだ課題はあると思いますが、よりよい医療看護のために、できることからやっていけたらいいなと思います。

ユニフォームが変わります

看護部のユニフォームは、決められたものの中から上下 4 着ずつを好みで選び、リースで洗濯してもらっています。概ね 4 年ごとにリニューアルして、今年の夏から新しいものになります。以前は、基本白で女性はワンピースもあったのですが、最近は、男女ともにパンツタイプで紺色やブルーやピンクなど、白以外のものも取り入れてきました。そして、今年はニットシャツや今までと違うカラー「オリーブ」を入れました。

ここ 8 年くらいあまり変わらない雰囲気だったので、気分が変わっていいかなと思っていたのですが、なんだかあまり評判がよくなくて、採寸の時に「選びたいのがない」「ナースエイドさんの方がいい」などという声もちらほら。でも、着てみると「あら、意外と悪くないわね」「やっぱりオリーブにしようかな」などと、徐々に人気も出てきました。慣れないものには抵抗があっても、やってみるとよかったってことがありますよね。電子カルテもそうでした。覚えるのが大変ではあったと思いますが、ちゃんと字が読めるし、メール機能もあって情報共有が格段にやりやすくなりました。だから、きっと慣れればすてきに思えるんじゃないかなと思います。新しいユニフォームは生地がよくて涼しいのです。コロナ対応で防護具を着る時にも今より暑くないんじゃないかなと思います。新しいもの、いいものを広い心で受け入れてもらえたらいいなと思います。



学会・研修の感想

【主な疾患と看護～メンタルヘルスの研修に参加して】

「主な疾患と看護」「精神科看護師のメンタルヘルス」の講義を受講し、改めて患者への理解と、自分自身の心の健康を大切にすることの重要性を学びました。主な疾患と看護では、統合失調症の患者に対して、各経過における症状を理解し、状態に応じた援助が肝要である。薬物療法だけでなく、患者との信頼関係や個別性を視野に、日々の関わりが大きな力となることを再認識しました。また、精神科看護師は患者のケアに力を注ぐ一方で、自分の心のケアも必要だと感じました。忙しい毎日の中でも、患者の体調だけではなく、自分の「心のバイタルサイン」も時々確認しながら、より良い看護につなげていきたいと感じました。

(A 病棟 増田蓮)

【日本精神科看護学会学術集会イン浜松に参加して】



第51回日本精神科看護学術集会 in 静岡に参加してきました。発表前日、当日と台風に見まわれ静岡県に移動できるか、ドキドキハラハラしていましたがなんとか発表当日は移動することができました。発表は、学術集会に参加することが初めてだったのでかなり緊張して、原稿を2行飛ばして読んでしまうというハプニングもありましたが、なんとか終わることができました。他病院の発表も聞くことができ、災害対策やストレングスについて学ぶことができました。今回学んだことを活かし、看護につなげていきたいです。貴重な経験をありがとうございました。

(E3 病棟 武藤琴音)

【虐待防止研修】

精神保健福祉法の改正により、病院の管理者は職員の研修・患者様の相談体制の整備だけでなく、虐待を発見した時には通報することが義務化されました。今回、愛知県精神科病院協会 看護部長部会の定例会に参加し、虐待通報に関する動向や虐待防止について学ぶ機会がありました。虐待通報の受理状況(愛知県精神保健福祉センター R7 年度 窓口連絡時点)では、心理的虐待が一番多く、何気ない声かけや業務に追われての対応が、虐待に繋がることがあるため、コミュニケーションや接遇などの教育が改めて重要であると感じました。

虐待防止には、権利擁護体制の充実を図り、個人の資質だけでなく、組織的に関わるのが大切です。患者の尊厳が守れる病院になるためには、組織の価値観の見直し、個人ではなくシステムや業務の改善など様々な組織編成のポイントがあると思います。特に管理職の価値観・方向性を定めるような教育や組織文化(価値観・組織風土など)の評価を可視化することが重要であることを再認識することができました。今後も学んだことを活かし、医療サービスの質向上につなげていきたいと思っています。

(F3 病棟 副看護部長 小川強)

「風鈴の音くらべ」

いつもは言葉シリーズを書かせてもらっていますが、今回は「音」についてご紹介します。暑い夏を乗り切るために今年も何か涼しくなる言葉はないかと探していた時に、「風鈴の音くらべ」という記事を見つけました。私の風鈴のイメージはガラスでしたが、鋳物や焼き物が胴体(外見)音



をだす部分(舌)竹やガラスの違いで音色が違うそうです。一番下の部分が短冊になります。風鈴には夏を乗り越えるための魔除け道具、暑気払いの意味もあるそうです。自分の好みの風鈴の音色を探して涼を求めるのもいいかもしれませんね。



看護教育師長 小川さなえ(精神科医学会認定看護師)